高等部道徳科学習指導案 『東京２０２０パラリンピックと木村敬一選手』

**１　主題名**　　日本人としてできること　Ｃ-(１７）　我が国の伝統と文化の尊重　国を愛する態度

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・日本人としてできること

・日本人としての自覚をもって国を愛し、社会貢献することが日本の発展につながることを理解する。

・日本の発展のために、何ができるかを考えることができる。

（2）教材　　東京２０２０パラリンピックと木村敬一選手　（P80-83）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| Ｃ　主として集団や社会との関わりに関すること　１７　我が国の伝統と文化の尊重　国を愛する態度日本人としての自覚をもって国を愛し，国家及び社会の形成者として，その発展に努めること。平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を養うこと |

(1)ねらいとする道徳的価値について【価値観】

「国を愛する」とは、歴史的・文化的な共同体としての我が国を愛し，国家及び社会の形成者として，その発展を願い，それに寄与しようとすることであり、そのような態度は心と一体として養われるものである。

国家の発展に努めることは，国民全体の幸福と、国としてのよりよい在り方を願って、その増進に向けて努力することが大切である。

（2）生徒の実態について【生徒観】

自分の気持ちを簡単な言葉で書き表すことができる生徒を対象とする。字を書くことが苦手な生徒に対しては、話し言葉での表現を代筆するなどの配慮を行う。

日常の学校生活で係活動や委員会活動に取り組んだり、家庭生活でお手伝い等の自分の役割を行なったりして、誰かの役に立つことを経験している生徒を想定している。

これまでの経験の中から、自分の得意なことや頑張ったことの一つ一つが、日本の発展につながっていることをイメージできるよう指導する。

（3）教材について【教材観】

木村選手の功績とそのための努力を十分に理解してから、自分の夢に向かって、すべきことを考える。また、自分の夢をはっきりともっていない生徒には、学級の中で頑張っていることや役立っていることなどを考えることから、得意なことを頑張ることが、将来の日本の発展につながっていくことを伝える。

身近な事象から扱っていくことで、日本の国家の発展や、国を愛するという、大きなテーマに近づけていきたい。さらに、学校生活においては式典の事前指導、オリンピック・パラリンピック教育の指導等と関連付けて、本単元のねらいを養っていきたい。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画 １時間（本時）

（2）準備　　 クラス生徒の名前が書いてあるカードを一人3枚ずつ

　　　　　　　　　　クラス生徒の得意なところ、役立っているところを書いたカード人数分

（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点☆評価の観点 |
| 導入 |  | １　オリンピック・パラリンピックで、日本が金メダルを取った時の映像を流す。（種目は何でも可）〇君が代が流れている表彰式を見て、どんな気持ちか聞く。 | ・嬉しい・エライと思う・すごいなと思う。 | ・木村選手の映像があれば良いが、無ければ何の競技でも可。・何名かを指名して、感想を聞く。・生徒の発言を板書で残しておく。 |
| 展開 |  | ２　教材　　東京２０２０パラリンピックと木村敬一選手を読む。〇木村選手が金メダルを取った時に、日本の国民はどのように感じたと思うか聞く。〇木村選手のすごいところを、P82①に記入し、発表する。　３　自分ができることを考える。〇木村選手のように、何か目指している夢や、将来なりたいものはあるか聞き、P82②に記入する。〇クラスの友達について、得意なことや、いつも頑張っていること、クラスの役に立っていることを考え、カードに記入する。・記名カードをランダムに3枚ずつ配り、その名前の人について記入する。 | 課題　木村選手が金メダルを取った時に、日本の国民はどう思ったか考え、木村選手のすごいところを書いてみよう。・嬉しい・感動した・金メダルを取った・アメリカに行って努力したこと・夢を叶えたこと課題　自分ができること、やりたいことを考える。・〇〇になりたい・分からない・とくにない課題　友達がどんなことに頑張っているのか、どんなことで役立っているのか考える。 | ・先の映像を見て、皆が感じたことを、日本中の人が感じたと伝える。・適宜、言葉掛けして、木村選手が頑張ったことで、沢山の国民に感動や勇気を与えたことを導き出す。・適宜、言葉掛けして、得意なことや好きなことを考えて記入できるように促す。・少しでも良いことを思い出して、記入するように言葉掛けする。・否定的な記入にならないように、机間指導で注意する。☆自分の考えをカードに記入しているか。（思・判・表） |
| 終末 |  | ４　自分が得意なこと、役に立っていることを知り、そのことが日本の発展に貢献できる活動であることを知る。・友達が書いたカードと、事前に教員が書いたカードを、本人に配付し、各自で読む。・人から評価されたことや、自分がやりたいと思っていることを、P83②に記入する。 | 課題　自分が周囲から何を評価されているのか知り、それを踏まえて、どのようなことを生かしていきたいか考える。 | ・カードに書かれていることは、木村選手と同じ様に、皆からスゴイ、役立っていると思われていることであると、伝える。・自分の得意なことや、やりたいことに向かって、努力することが大切であることを伝える。・そのことが、将来の日本を発展させていくことを伝える。 |

（4）終末での教師の説話例

木村選手が自分の得意としている水泳で、パラリンピックで金メダルを取るために努力したこと、努力し続けて夢がかない、そのことで感動したことを知りました。

木村選手のように、自分の夢に向かって努力したり、得意なことをさらに上達させたりすることで、他の誰かを感動させたり、誰かの役に立ったりします。そのことは、社会に貢献することにつながり、将来の日本を発展させるになります。

みなさんは、これからの日本を創っていく人たちです。素敵な日本の未来を創造していってくれることを期待しています。